

## 県的団体との懇談会で頂いたご意見・ご提言

平成19年7月23日開催

### 【出席団体】

長野県男女共同参画推進県民会議／長野県国際交流推進協会／長野県市長会／長野県町村会／長野県社会福祉協議会／長野県老人クラブ連合会／長野県身体障害者福祉協会／日本労働組合総連合会長野県連合会／長野県医師会／長野県看護協会／長野県環境保全協会／長野県自然保護連盟／長野県芸術文化協会／長野県経営者協会／長野県商工会議所連合会／長野県商工会連合会／長野県中小企業団体中央会／日本青年会議所北陸信越地区長野ブロック協議会／長野県森林組合連合会／長野県市町村教育委員会連絡協議会／信濃教育会／長野県PTA連合会／長野県体育協会／長野県防犯協会連合会

分野	意見・提言等
地球温暖化	長野県地球温暖化対策条例が確実に実行されているかどうか調査するような人員を配置してほしい。
	長野県地球温暖化防止県民計画を見直すようだが、それに合わせて長野県地球温暖化対策条例を、例えば2050年には温室効果ガスの排出を半分にするようなことに間に合うよう、進化させてほしい。
	長野県でCO <sub>2</sub> が一番増えているのは生活者から。それもマイカーの増加による。マイカー削減を計画の中に入れてほしい。
	長野県には木造住宅が多いので、森林整備に併せて県産材をたくさん使ってもらうとともに、本県は寒い地域なので暖房費がかかるが、住居に冷暖房を使わなくて済むよう断熱効果の高い住居の研究、普及をしてほしい。
自然環境	里山の再生が必要。里山を重視した施策を計画に盛り込んでほしい。
農山村多面的機能	野生動物の食害のため、農家は柵を張った中で働き、育てた木は鹿に皮を食べられ金にならず、また、熊が里に出て来て子供は鈴を持って通学するような実態の中、5年後にはこうした被害が軽減できるような方向づけをしてほしい。

分野	意見・提言等
ものづくり産業	<p>企業は3Rの最大限の努力をしても、一定の廃棄物は排出せざるを得ない。こうした中、県では産業廃棄物最終処分場の用地を将来に備えて先行取得することになったが、こういった事実を県の内外に大いに発信して、産業界に安心を与えると同時に、産業インフラとして企業誘致の宣伝材料にしてはどうか。</p>
商業・サービス産業	<p>高齢者が増える中で中山間地の商業を利便性というかたちで見直していく必要がある。これからは地域の中で身近にある利便性を持った中山間地の商店街をもう一度再生していかないと長野県の豊かな暮らしはあり得ない。</p> <p>人づくりは、そこから新しい産業が生まれる。開業率を高める手段になるのではないか。</p>
労働環境	<p>働くことについて、労働、経営、NPO、公共が全体となって細部についてラフな感じで話し合えるような環境づくりを進める姿勢が必要。</p> <p>人は年をとっても働きたいという要望が相当ある。生涯学習は、その言葉から勉強をやるという意識になってしまうが、そうではなく、働ける人が働けるような工夫をすることも考えてはどうか。</p> <p>これからは若い人が減ってしまい、高齢者のパワーを借りないと産業が成り立たなくなるので、高齢者の働く場所の創出に取り組んでほしい。</p>
健康づくり	<p>食育の軸はまず家庭にあると思う。生活習慣病が子供にまで及んでいることから、正しい食習慣の定着は将来を見通した健康増進にもつながるので、家庭の食卓が大切。</p> <p>長野県の健康長寿は、今のままでは低下していくと思う。それは県民の意識も変わってきているし、医療職も仕事はかなり広く深くなっていて今までと同じように関わっていけないという現状があり、その辺の見直しが必要。</p> <p>自殺が増えているという実態がある。</p>
医療	<p>医師不足を緊急の課題として取り組んでほしい。</p> <p>医師不足の問題などセーフティーネットに係る部分で、全国的に下位にあるものがあるが、それをどのような施策でどこまで上げるんだといった具体的な計画にしていく必要がある。</p>

分野	意見・提言等
	<p>医師不足が深刻。特に勤務医が不足している。医療費抑制で病院は働けど働けど赤字。勤務医はますます働けということになる。看護師も増やさなければならぬが、医療費は増えない。</p> <p>研修医の新しい研修制度ができたため、大学病院は医師が枯渇し、医師の派遣ができなくなっている。</p> <p>産科医が減っているのは、医療訴訟が原因。また、24時間対応しなければならない時間的な制約も減少の原因。</p> <p>医師不足に拍車をかけているのが女性医師の増加。家庭を持つようになってサポート体制が十分でないため。</p> <p>病院と開業医の機能分担が必要。ちょっとした救急患者は病院ではなく普通の開業医に行ってもらわなければならない。そうすれば病院の医師の労働が軽減される。</p> <p>助産師を増やすことで、産科の医師が過労にならないようにすることが必要。</p> <p>医療費が抑制されているので、介護職員に対する給料が低く上げられない。もっと労働に見合った医療費の体制にもってってもらわなければ医療は崩壊する。長野県は全国的にも医療費が低く、これ以上切り詰めようがない。</p> <p>看護師不足だが、資格を持った人は潜在的にいる。ただ免許が更新制でないため、現在どこにいるか把握が困難。また、新卒の看護師が1年以内に1割近く辞めてしまうが、これには、現場が非常に忙しい、医療事故に遭遇しやすい、習ってきたことと現場がだいぶ違い付いていけないということがある。また、平均勤続年数は約10年。30歳前後に、結婚、妊娠、育児で辞める人が多い。この辺の解決が必要。</p> <p>看護師確保のため、子育て支援や、女性の働きやすい職場にもう少しくみ細やかな対策を講じてほしい。</p>
子育て	<p>働きながら子育てしやすい環境づくりを進めてほしい。ファミリーサポートや病時病後の預かり等もっと積極的な支援をしてほしい。</p> <p>少子化が進み、一緒に遊ばせる子供がいなくなっている時代の中で、子供が育つ上で必要な仲間をどうするかといった子育て上の視点がほしい。</p>

分野	意見・提言等
高齢者福祉	高齢者自身、お荷物にならないよう、特に健康長寿で世間のお世話にならなくて済むように頑張っているので支援してほしい。
	療養病床を老健施設に移行しようという国の動きがある。老健では看取りができない。国は医療強化型老健をつくると言っているが、介護療養型病床とどこが違うのか。老健にすれば金が減るとのことかもしれないが、医療を強化すれば結局介護療養型病床と同じになるのではないかという心配がある。
	在宅医療が進められているが、高齢者が高齢者の介護をするのは限界がある。訪問看護ステーションも 24 時間行っているわけではない。介護施設を十分備え、動けなくなったら施設に入れるような体制を組んでほしい。
障害者福祉	障害者の団体への加入率が低く、団体では苦慮している。プライバシーの問題があって未加入者が把握できない。災害時に障害者がどこにいるか分からず助けることもできない。行政にはプライバシーをもう少し緩めてほしい。
地域福祉	介護職員が足りなく、介護施設を維持できないという状況がある。中長期に立って県としての対応をしてほしい。
治山・治水・砂防	長野県の森林は終戦後に植林をして 50～60 年経っており、1 年たりとも手を抜けない状況の年代層である。また、災害による土石流と一緒に倒木も流されてきて被害を拡大している。こうした実態を踏まえて、森林の手入れを進める施策を講じてほしい。
防 災	自然災害が相次いでいるが、日頃からの住民の支え合いが大事。
	災害時の安否確認等においても普段からの地域の結びつきが大切。行政、地域、市民活動等役割分担と協働によって平常時からの人間関係のつながりが必要。県においても住民支え合い運動を推進しているが、なかなか進んでいない。県に強力なサポート体制を敷いてほしい。
	地震等大きな規模の災害では自助しかない。家で家具類の下敷きにならないよう平素からの注意が必要。行政できめ細かい指導をしてほしい。
防 犯	H13、H14 に犯罪が多発。加えて子どもやお年寄りへの犯罪が増えたため、防犯への関心が高まり、いろいろな施策が講じられた結果、犯罪の発生率は 5 年連続で減少しており明るい兆しも見えてきたが、まだまだ県民の体感治安は悪い。

分野	意見・提言等
	<p>安全は警察や防犯ボランティアまかせというのはいかかなものか。自分たちの地域を犯罪から守るといふ県民の意識が非常に大事。防犯意識の高揚、自主防犯的な活動の協働での推進をしっかりと位置付けていくことが必要。</p> <p>防犯への関心が犯罪の多発によって高まるようでは困る。平常時においても、地域コミュニティを中心にした防犯の意識付けが必要なことを盛り込んでほしい。</p>
学校教育	<p>へき地は人を育てても出て行ってしまふので、教育が投資損になる。後期中等教育、専門教育は県の責任なので、地域産業を担う人材が育つよう、へき地にも教育の拠点を設けてほしい。</p> <p>環境教育は非常に大事。環境への負荷をできるだけかけないように生きるという教育を、カリキュラムの中にしっかりと組み込んでほしい。</p> <p>教育における長野県らしさは何なのか。教員が長野県の子どもたちを指導するのによって立つべき根本的な教育理念をどこに据えていこうとしているのか表してほしい。</p> <p>教育についても地方分権の進展が非常に大事。県と市町村のパイプを上から下へでなく、下から上へどうつなげるか。一つの仕組みのようにしてつながらないか。各教育事務所に指導主事はあるが、他によい方法はないか。日常的に学校や市町村教委の悩みを長野県の教育としてどうするか一緒に考えるといったことがこれまで希薄だったのでモデルとしてやってほしい。</p> <p>教育改革に関わる三法案が通っており、具体的に県に下りてくる。法律に基づき具体的なものを作っていく場合に、長野県に当てはめながら作る部分があるはず。その際、現場の声が政策に生きてくるような道筋をつくってほしい。</p> <p>子供たちの安心、安全について行政としても関与していくことが必要。</p> <p>発達障害の子供の受け皿と対応が少ない。大きくなってからの受け皿もない。具体的な施策を計画に入れてほしい。</p> <p>親の教育力の低下は認めざるを得ないが、行政でも支えてほしい。親は教育のプロではないので、プロである学校や教育委員会から多少なりともアドバイスをもらい、共にやってほしい。</p>

分野	意見・提言等
文化芸術・ 地域文化	豊かな感性や温かい心を育てるには芸術創造活動が必要。県民の活動をよりよいものに育て上げるため、県の施設を低廉に利用できるよう使用料の減免等に配慮してほしい。
	グローバル化に伴い芸術活動も外国との友好を主眼においてやっていけたらよいと思う。海外との交流を強める時代に向かってきているので、芸術活動にインパクトを与えるためにもそういう行事を奨励したり、振興するための支援をしてほしい。
スポーツ	体育・スポーツ活動は施設がなければできない。7割は学校体育施設で、施設開放なくして社会の人達のスポーツ活動はあり得ない。施設と指導者の確保がこれから大事になってくる。
	総合型地域スポーツクラブの育成を広めていくことで長野県の体育、スポーツの振興につながる。
	豊かで活力ある長寿社会の構築は、体育、スポーツ活動なくしてはなかなか図れない。高齢化社会の中で体育、スポーツに目を向けていかなければならない。
	地方のプロスポーツ活動を応援することで地域の活性化を図るような、県民に夢を与える分野を計画に特記してもらえば面白い。
男女共同参画	少子高齢化が進む中、男女共同参画の視点から見ると、家庭、地域における意識改革が少しずつ進んだことで少子化に少しは歯止めがかかったと思うので、より一層の推進が必要。
	子育て支援について、家庭においては、父親と母親が共に助け合って子供を育てていくことが基本。そのためにも男女共同参画社会づくりの推進が求められる。
	育児休暇を男性も普通にとれるような社会にしていくことが必要。そのためにも男女共同参画社会の実現に向けて活動を強化すべき。
	男女共同参画の視点で子供を育てる環境について明記してほしい。

分野	意見・提言等
国際化	<p>外国人が県内にも多くいるが、言語のハンディや文化の違い等により共生するのが難しい家庭や個人がいる。そういうことに行政がどこまでやるか。公と私の中に大きな中間領域が広がっている。国際交流を進める団体には多くの相談が寄せられている。そうした中間領域を誰がどう対処していくかということが喫緊の課題。</p> <p>一般の県民や団体が外国の情報を得るのに、国際交流を進める団体が橋渡し役となることで、より国際交流を進められるのではないかと。</p>
農山村づくり	<p>中山間地を蘇生、再生することが大変重要と認識されているが、どういう事業を組み合わせるのか具体的に計画に盛り込まないと、5年間の計画なので徐々に時間が過ぎてしまう可能性がある。</p>
情報化	<p>大容量高速の通信ネットワークを官の費用で至急つくるべき。今後の産業の発展において情報ネットワークの容量とスピードがネックになる。</p>
市町村への権限移譲	<p>県と市町村の役割分担を見直す必要があるのではないかと。市町村で十分に行える仕事がまだ県にだぶあると思う。根本的に役割分担をやってほしい。</p> <p>地方分権が大事。市町村の行政事務はほとんどが自治事務なのに、法令や政令、省令で縛られている。そのような中、県は国の方を向いているように思うので、市町村の方を向いてやってほしい。</p>
大綱(計画策定の趣旨)	<p>大綱に「時代にふさわしい長野県づくり」とあるが、もっと先を行くものを打ち出してほしい。</p>
大綱(時代の潮流)	<p>大綱の「時代の潮流」をもう少し整理できないか。パートによってはあまりに範囲が広くて焦点がぼけてしまっている箇所も見受けられる。</p> <p>大綱の「時代の潮流」中「価値観の多様化と子どもを育む力の低下」では、教育について影の部分しか触れられていないので、輝く部分があってもよいのではないかと。</p>
大綱(県づくりの方向)	<p>大綱の「県づくりの方向」をもう少し言い切った方がよい。「～ことが欠かせない」とか「～ことが重要である」とか、どちらに転んでもいいような言い回しは計画に勢いがなくなる。</p>

分野	意見・提言等
	<p>県歌信濃の国のような県づくりの基本を打ち出してほしい。大綱には固有名詞がほとんどないので、どこの県にも当てはまるようなことが有り過ぎる。地域編があるにしても、広くて特色ある県土を鳥瞰的に眺めて南信、中信、東信、北信が有機的にどうやっていくのかつかめない。</p>
<p>大綱（めざす姿）</p>	<p>大綱の「めざす姿」中「恵み豊かな自然と共に生きる長野県」の「恵み」という言葉が気になる。これでは人間優先になってしまう。本来は、豊かな自然があって人間の生活がある。</p> <p>計画では5年後にはこうしたいという積極的な意思表示が必要。そのためには、個別かつ具体的な数値目標を使って方向性を示してほしい。例えば、県民一人当たり所得を5年以内に10位以内に持っていくといった目標を掲げてもらおうと、めざす姿に向かって県民が一致協力して力を合わせていけるのではないか。</p> <p>長野県の立地や風土で、世界の中で比較優位なものが何か分析し、世界で競争力が維持できる産業を育成するという大きな目標は行政がやった方がよい。大綱の産業政策の中で、将来長野県が世界の中で比較優位に立てるものは何かきちっと検証されているか疑問。長野県の外に向かって物流コストが安く付加価値の高いものを売り、県の中にお金を呼び込む産業群を持たずして長野県の経済は成り立たない。</p>
<p>大綱（県づくりのための施策）</p>	<p>企業活動は、環境や人づくりと別の柱になっているが、双方とも関わりがある。分野横断的な取組の整理等により施策の整合性を図る必要がある。</p>
<p>大綱（施策の展開）</p>	<p>大綱の「施策の展開」中「未来を拓く人づくり」に「確かな学力や豊かな人間性・社会性を育み」とあるが、「生きる力」も加える必要がある。</p>
<p>その他</p>	<p>人口や金が都会に集中する中、長野県らしさを出して差別化していかないと、これから生き残っていけないと思う。長野県は自然環境に恵まれており、ものづくりにおいてもいろいろな産業が発達している。それらを更に伸ばしていく必要がある。</p> <p>長野県は南北に長いので、長野県の中で地域間格差が出てきていないか心配。そういった面にあたたかい目を向けてほしい。</p>



分野	意見・提言等
	長野県人は広告や宣伝が下手だと言われている。長野県らしいことを遠慮なくPRして行ってほしい。
	長野県はどういうところに特徴があって、どこが魅力か強く打ち出してほしい。
	産業振興戦略プラン等先行している個別の計画と政策の一体感をもって策定してほしい。
	PDCAのサイクルの仕組みを作って進行管理をしてほしい。
	昨今の個が前面に出され強調されてきた価値観を乗り越えて、もう一度周りを振り返り、地域と自分、社会と自分の関係や自らの存在意義を改めて考える必要がある。
	人と共に生きる意義や自然と共に生きる意義といった根源的なことを盛り込む必要がある。
	長野県はオリンピック等を開催したボランティアとホスピタリティあふれる県であるので、人づくりを是非厚みを持った形で計画に盛り込んでほしい。
	計画は数値目標を入れないとつくただけになってしまう。無理に数字でなくて、全国の中の順位でもよい。数値目標を入れてお互いにそれに向かって努力することが必要。
	行政のつくる計画は、どこからもつつつかれないようにするため、どこが一番重点だか分からない。
	大綱と地域編がうまく整合し、つながるようにしてほしい。